

発行：はつらつ編集局
 発行日：平成 26 年 11 月 1 日
 発行人：吉田 秀明
 編集人：はつらつ編集委員
 お問い合わせ：0135-23-3126



研修医リレーコラム66 「便潜血検査について」

斗南病院から1ヶ月地域医療研修でお世話になっていました 近藤 知大です。病院の皆様や、患者様にとても勉強になる研修機会を与えていただきありがとうございました。今回は便潜血検査について紹介します。

大腸がん検診として広くおこなわれている便潜血検査は、費用も低額で、簡便でありながら、受診によって確実に大腸癌による死亡者を減らす検査です。早期がんの発見率は5割、進行がんでは9割を発見できます。

・便潜血検査ってなに？

便の中に血液が混じっているかどうかを調べる検査です。

・便潜血検査はなぜするの？

大腸がんやポリープなどの大腸疾患があると、大腸内に出血することがあります。この出血があれば大腸がんが疑われますが、ポリープや痔などでもみられるので追加の検査が必要です。

・なぜ2日するの？

大腸がんからは出血しているときと、血がとまっている時もあるので2日間とって、がんを見逃さないようにしています。

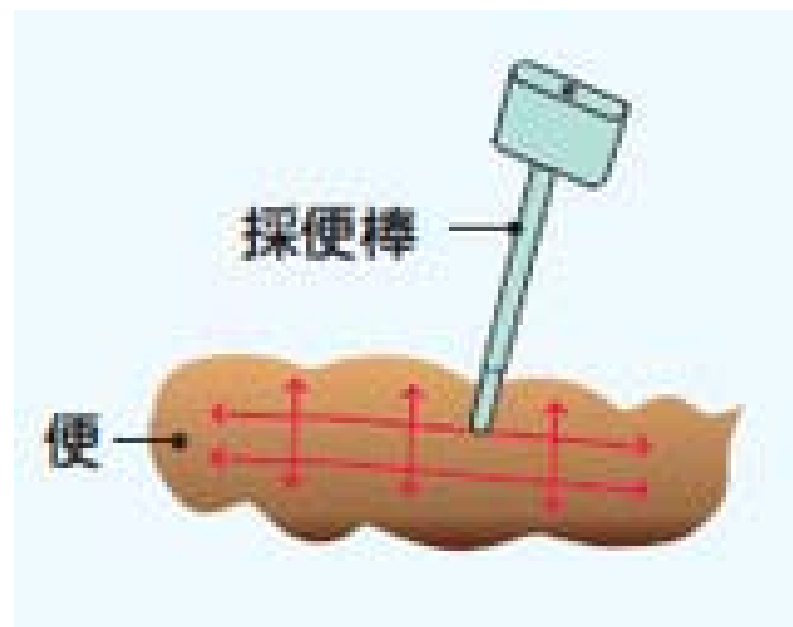
・ヘモグロビンとトランスフェリンって結果の紙に書いてあるけど違いは？

どちらも出血がないかをみています。ヘモグロビンは変化しやすいため、トランスフェリンも同時に検査することでがんの見逃しを減らしています。

・便潜血陽性(出血があった場合)だったらどうするの？

便潜血陽性であった場合は大腸がんの可能性もありますが、痔やポリープのこともあります。この場合は、大腸カメラをして大腸がんではないことを確認する必要があります。

大腸カメラとは違い、痛くもなく、検査の準備も大変ではありません。40歳を過ぎたら、年1回健康診断を受けるときに大腸がん検診(便潜血検査)を受けましょう。 **斗南病院研修医 近藤 知大**



地域医療国際支援セミナー

2014年10月23日、余市病院において村上大樹医師による講演会が開催されました。

村上先生は、2008年より国境なき医師団の医師として世界各国の支援活動に携わり、2011年からは外務省医務官、現在は、在南スーダン日本大使館の医務官としてご活躍されています。

今回、南スーダンにおける医療事情・活動体験についてご講演頂きました。日本とは大きく異なる生活環境、限られた物資、日々変化する社会情勢の中で、ただ一人の外科医として、手術・外科病棟業務のみならず現地スタッフの指導、医薬品管理・データ分析を行い、現地のために使命感を持って真摯に取り組む姿勢が講演からも伝わってきました。

村上先生、感慨深いお話をありがとうございました。



救急件数 (10月) 外来受診274件 うち入院81件 救急車来院85件 うち入院50件